

令和5年度 学校評価表		85 穂高商業高等学校		
分掌	学校教育目標		中・長期的目標	
	1. 幅広い教養と専門的な知識・技術を身につけ、地域に貢献できる人材の育成 2. 豊かな人間性と創造力を持ち、主体性ある人間を育てる 3. いじめ・体罰・セクハラを起こさない安全・安心な学校作り		自ら学び行動することで共に生きることの大切さを知る生徒の育成 (自学・自立・共生)	
	今年度 重点目標	1 商業高校の特色を活かした教育活動の充実 【ビジネス探究教育の推進】 2 地域と連携し地域に貢献できる教育活動の推進 【地域人教育・HOTAKAの推進】 3 いじめ・体罰・セクハラを行ない安心・安全な学校づくり 【信頼・信用から安心・安全な学校づくりの推進】		
活動目標	評価項目	評価の観点	年間評価（成果と課題）	
教務	・学校全体の円滑な運営を行う	・日常的業務の遂行（係・委員会・学年との連携） ・緊急時の備え ・情報メールの活用 ・内規の見直し ・次年度年間行事予定表作成	・関係部署との連絡を密にし、各種行事等を円滑に遂行するための援助ができたか。 ・緊急時の備えを年度当初に完備し、活用できたか。 ・生徒・保護者・職員への情報発信が迅速かつ的確に行えたか。 ・内規の運用上の問題点の洗い出しと修正が的確にできたか。 ・授業時数の確保と、年度末反省を活かした年間行事予定表が作成できたか。 ・地域に対して本校の教育活動に関する情報をきちんと伝えられたか。 ・学校関係者評価を計画的に実施し、その結果を教育活動に活かせたか。	・学校全体の運営を円滑に行うことが出来た。年度に掲げた業務内容に沿って業務の遂行を果たせた。 ・開かれた学校づくりを目指し、5回の授業公開を実施することが出来た。参加者は中学生と保護者であったが、来年度以降は、地域の方々にも参加いただけるよう改善を図る。
	・開かれた学校づくりを推進する ・学校評価により教育活動の充実を図る	・開かれた学校づくりに関わる業務の円滑な遂行 ・学校評価の実施・集約・対応		
生徒指導	・生徒の人権・人格を尊重し、自主的で民主的な資質と行動力の育成を図り、日常生活に即して社会性も養う。	・問題行動に関する指導	・問題行動の発生を防ぐ取り組みが実践できたか。（学校行事での取組や校舎内外の巡回指導など） ・問題行動発生時における対処がスムーズに行えたか。（家庭連絡や校内連携など） ・反省指導が効果的に行えたか。（時期・方法・回数など） ・担任を中心とした、継続的指導ができたか。 ・学年・教科担当・係りなどの関わりが効果的に行えたか。 ・交通安全指導が効果的に行えたか。	・学校行事（入学式・穂高祭・穂高マーケット・合唱コンクール）における校舎内外の警備・巡回指導（4月17日より現在まで教室を巡回、下校指導2回）など計画通りできた。 ・担任に協力していただき、問題行動発生時における対処がスムーズに行えた。 ・指導は効果的に行えた。 ・担任を中心 → 学年全体として、継続的指導にしたい。 ・学年・教科担当・係などの関わりを強化したい。 ・6月に1学年で交通安全教室を実施した。DVD鑑賞・講義・デモンストレーションおよび生徒による自転車運転の体験をするなど、注意喚起を促した。 ・次年度も1学年を対象に実施をしたい。 ・1学年を中心に自転車通学時のヘルメット着用を推奨した。次年度以降も継続したい。 ・情報モラル講座は1学年集会等で実施するとともに、情報処理の授業内においても扱っていただいた。 ・重大なトラブルはなかったが、SNS上のトラブルが多々発生している。中学時代より所有しているため、中学校との連携も必要か。 ・定期テストにて身だしなみチェックをお願いした。 ・校風委員と協力しながら、定期的な指導を継続していきたい。 ・女子スラックスの購入をさらに推奨していきたい。 ・制服のあり方は現在検討中。
	・基本的な生活習慣を身につけさせ、心身の健全な育成に努める。	・学校生活に関する指導	・情報モラルに関する指導ができたか。 ・服装、頭髪に関する指導が効果的に行えたか。	
生徒会	・自ら考え自ら行動できる主体性を育て、生徒が活きる活動を支援する。	・自主性を育てる指導	・生徒自らの企画・運営について適切な助言・指導ができたか。	・本部会をはじめとして、総務会、行事該当委員会メンバーで繰り返しミーティングの機会をもち、生徒自らが企画運営する機会を育むことができた。
	・全校生徒を巻き込んだ生徒会活動を心がけ、それをリードする役員にはリーダーとしての自覚形成を促す。	・委員会活動の充実 ・他校生徒会との交流 ・地域との交流	・日常的活動がスムーズに行えるように助言・指導ができたか。 ・行事や委員会活動の根本的な意味や意義を考え実行できたか。 ・他校生徒会執行部などと交流の場を設けられたか。 ・穂高及び学校周辺の地域と交流の場を設けられたか。	・コロナ禍が区切りを迎えたなかで、これまで制約を受けた活動を、現状に併せていかにアレンジを加えて実り多きものにするか、検討を重ねてこと文化祭においては充実の行事実現に結びつけることができ、池田工業高校のペットボトルキャップ集めに参加し、学校の枠をこえた活動を実践することができた。 ・穂高納涼祭、エイワ祭、神竹灯といった地域の行事への参加を通して、地域の活動や社会について学びを深めることができた。
進路指導	・家庭との連携を緊密にとりながら、生徒一人ひとりの進路意識の向上を図る。 ・生徒一人ひとりに対してきめ細かく丁寧な進路指導を行うと同時に、専門課程高校の特色を活かした進路指導の充実を図る。	・関係諸団体と緊密な連携を図り、進路指導上必要と思われる情報の収集・管理・提供を的確に行う。 ・生徒の自主的な進路選択が可能となるように必要かつ有意性のあるタイムリーな情報提供を行い生徒一人ひとりに対する万全のサポート体制をつくりあげる。 ・専門課程高校の特色を活かした進路指導の研究および実践を進める。	・関係諸団体との連携を図りつつ、進路指導上必要な情報収集・情報提供を行うことができたか。また適切な情報管理がなされたか。 ・大学・短期大学・専門学校の教育内容や公開授業、選抜方法等に関する情報を適切に提供することができたか。 ・各事業所の求人情報を迅速に収集し、受験希望企業の決定に有意性のある情報を提供することができたか。 ・生徒の進路希望状況を学年スタッフと共有し、進路実現のための協働的なサポート体制を構築することができたか。	・就職希望者に、タイムリーな求人情報を提供し、職場見学の企業を選定する際に役立たせることができた。 ・大学・短大・専門学校各校の特色、教育内容、進路実績等につき学校担当者とどの面談で情報を収集し、希望生徒や保護者に少しでもタイムリーな情報を提供することはできたが、さらに効果的な指導方法については検討が必要。 ・大学・短大の出願に関してのガイダンスを実施することができた。 ・生徒一人一人が自主的な進路決定を行うことができるように、個々の生徒に対し綿密かつ丁寧な対応を心がけてきた。 ・学年担当の進路係が中心となり、当初から予定していた学年の進路行事はすべて行うことができた。 ・生徒が資料をゆっくり見ることができる環境の実現を模索したい。
人権・図書・視聴覚	・「人間」を尊重し、相互に思いやる心を育てる。 ・「平和」と「公正」を愛し、民主的な社会の建設に積極的に関わっていくことのできる人間の育成を図る。	・人権についての知的理解を深め、不当な差別や矛盾に気づく力。 ・思いやりの心や連帯感、人権を大切にする精神。 ・平和的・民主的な手続きによる問題解決。	・身近にある様々な事例から不当な差別や社会的矛盾に気づく力がついたか。 ・思いやりの心や連帯感が身についたか。人権を大切にする態度が身についたか。 ・平和的・民主的な手続きによる問題解決ができるようになったか。	・各教科の中や、教科横断的に差別や矛盾への関心を更に高めていきたい。 ・映画『ワンダー君は太陽』を鑑賞し、感想文を書いた。多様性を認め合い、他者を尊重しあうそれぞれの価値観を育てることができた。 ・コロナ禍を経た現代社会における問題解決の手法を更に検討したい。
	・生徒の教科学習の充実のため、また各個人の知的興味や感性を高めるために図書館資料の整備・充実を図る。	・希望図書を把握し、資料の充実・整備につとめる。	・館内整備を計画的に行えたか。 ・資料の収集、整理が適切に行えたか。	・「探究」を意識したものや、本校の教育活動に役立つ選書を行った。 ・書架の耐震固定を行い、図書館内の安全確保に努めた。 ・年度当初の計画に沿って購入除籍を進めた。
	・職員の教科指導等に役立つように、館内の環境や図書資料の整備を図る。	・教科指導に役立つ資料を整備・提供し、授業での図書館利用を促進する。	・授業で図書館は積極的に利用されたか。	・係として資料の整備・提供は試みたが、授業での利用はほとんどできなかった。授業の中で図書館を活用してもらうような手立てを考えていきたい。
	・生徒の利用指導及び読書指導の充実を図る。	・定期的な情報を発信し、図書館利用を促す。	・来館者数、本の貸し出し数等、活発に利用されたか。 ・マナーを守って利用できたか。	・新着本やおすすめ本、新聞の切り抜きなどを入り口外に並べて紹介するなど、広報活動に努めた。 ・春、秋の読書仲間中の朝読書について、どのような朝読書を目指すか、再確認した。また、振り返りをしっかりと行い、次年度の検討事項を明らかにすることができた。
	・図書委員活動の自主的・積極的活動を促す。	・図書委員の活動や読書仲間中の行事企画の充実。	・図書委員の活動は、計画的に行えたか。	・図書館だより（リーフレット）の発行やクリスマスイベントなどを実施し、図書委員としての自覚を促す指導を行った。 ・夏休み中南安曇農業高校で行われた図書委員会交流会に参加して積極的に他校生とも交流し、そこでの経験をその後の自校での活動に生かすことができた。
	・視聴覚機材を通して学習への意欲・関心を高める。 ・芸術鑑賞を楽しみ、感性と感覚を高める。	・さまざまな視聴覚機材を利用する。 ・芸術鑑賞行事の円滑な運営	・視聴覚機材の使用により興味・関心は高まったか。 ・芸術鑑賞行事が、生徒の情操を涵養することができたか。	・視聴覚教材の改善については更に改善の余地がある。 ・第1回考查最終日、大町市文化会館での芸術鑑賞を円滑に実施することができた。2団体によるジョイントコンサートの形式の公演は生徒の満足度も高く、生徒の情操教育に資するところ大であった。
保健指導	・感染症対策をとりながら健康診断を行う。 ・けがや疾病を早期に発見し応急処置を行う。 ・健康相談活動を支援室と連携を取りながら実施する。 ・生徒職員への研修。	・定期健康診断の実施 ・応急処置の実施 ・健康相談活動の実施 ・保健講話、職員研修の実施	・感染症対策をとりながら健康診断を実施できたか。 ・けがや疾病の応急処置を実施できたか。 ・健康相談活動を校内の連携をとりながら実施できたか。 ・保健講話を実施できたか。 ・職員研修を実施できたか。	・感染症対策をとりながら健康診断を実施した。 ・保健室来室者への応急処置を実施した。 ・健康相談活動を行い、校内の関係機関への連絡を実施した。 ・性教育講話を実施した。 ・職員研修を実施した。
清整・防災	・地域に貢献できる学校づくりのため、学校周辺の美化活動に努める。 ・心を育む時間大切に、掃除を通し「気づき力」を学ばせ ・日々「美しい環境」で過ごす習慣を身につける。 ・落ち着いて授業に集中できる環境づくりを目指す。 ・見えないところで頑張る！ 「掃除から心育み成長へと導く」	・クリーンキャンペーン（美化活動）実施の提案 ・文化祭での清掃活動 ・日常の清掃活動の取組状況 ・ゴミの分別状況 ・大掃除の徹底 ・清整作業当番活動	・穂高駅・役場・神社等の公共施設の美化活動ができたか。 ・学習環境の美化に貢献できたか。 ・生徒の学校設備に対する「大切に使う・きれいに使用する」という意識を育て、積極的に日常の清掃に取り組ませることができたか。 ・日常のゴミの分別が適切に行われているか。 ・委員自ら自主的に計画行動に移せたか	・PTA保護者・1年生・清整委員で、クリーンキャンペーン実施。 ・駅・公園・神社・通学路・校舎内外の美化活動ができた。 ・月例大掃除毎月実施、全館水モップ拭き掃除も実施できた。 ・プリント・放送・委員自らの作業姿勢行動で全校への意識向上促し、掃除への認識高め積極的に取り組む姿勢が持てるよう努力した。 ・学校「美しく整えよう」全校皆がごみ分別・処理を心がけられた。 ・全校がきちんと掃除の大切さを自覚できるよう、更なる工夫呼びかけ。
	・日頃から災害非常時における意識の喚起と高揚 ・避難等の周知徹底 ・冬期ストーブの安全管理	・避難対策 ・安全(生命)確保 ・正しい消火器使用	・生徒、職員共に非常時における対応など意識の高まりは見られたか。 ・避難訓練、消火器の実技訓練等を通じ、生徒職員の防災意識の向上が計られたか ・冬期のストーブ使用が正しく安全に行われたか。	・今年度から非常時に備えて非常食を用意したが、職員と保護者には周知でき、生徒には周知できなかったため、全体的に周知をして意識を高めていくことが課題である。 ・避難訓練では、ふさげて防災ベルを鳴らしてしまう生徒がいたことから緊張感が足りなかった。次年度では、緊張感を持ち非常時に備えて訓練を行っていく。 ・ストーブの使用について、使用方法を各クラスに配布したこともあり現時点で特に問題ない。次年度も使用方法を配布していきたい。
PTA・同窓会	・保護者と教職員の連携・連絡を密にして、「生徒の成長」というPTA共通の願いの実現をめざす。 ・専門部会の活動は、できうる範囲での充実を図る。	・PTA諸行事の充実 ・対外的なPTA行事への参加 （中信、県、北信越、全国の高P連研究会など）	・PTA諸行事を円滑に運営し、充実を図れたか。 ・諸会合の内容を会員に伝達・広報することができたか。	・昨年度と比較し、感染症の影響がなく、PTA諸行事を計画どおり実施することができた。 ・新たに学校ホームページでPTA諸行事の活動について広報することができた。 ・PTA組織や活動内容を見直していくことが今後の課題である。
	・会員相互の親睦 ・母校の発展と地域社会の文化の向上発展に貢献する。	・同窓会諸行事の充実 5月 同窓会理事会及び同窓会総会(本年度中止) 8月 同窓会支部対抗親善ソフトボール大会 3月 同窓会入会式 5・8・10月 穂高あづみ野会ゴルフコンペ ・同窓会報の発行など	・同窓会諸行事・諸活動が充実して会員相互の親睦が深まったか。 ・同窓会活動の見直し改革が行われ活性化がされたか。	・ソフトボール大会は、猛暑により中止とした。来年度以降、開催時期の検討が必要と考える。他の行事は参加者は限られるものの、会員相互の親睦を深めることが出来た。 ・役員の高齢化が深刻である。役員改選に向けての手立てが必要である。
生徒支援	・要支援生徒に関する情報を把握し、職員、スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）との連携を図る。 ・年2回のアセス、生徒支援面談などを通して、いじめ等の早期発見・支援を図る。	・年2回、生徒支援面談を計画的に実施し、生徒の状況把握に努める。 ・要支援生徒への適切な支援が行えるよう、情報共有や特別支援教育に関する研修等を計画的に行う。 ・欠席が長期にわたる生徒に関する協議を行う。 ・クラス担任等と連携し、SC、SSWを状況に応じて活用していく。	・生徒支援面談を計画的かつ有効に実施できたか。 ・各部署と連携をとりながら適切に生徒支援が行えたか。 ・SC、SSWの活用は適切かつ十分であったか。 ・諸活動を通して、安心安全な学校作りに寄与できたか。	・アセス、面談は効果的であった。実施時期や方法の工夫が必要である。 ・SC、SSWの活用を適切に行うことができた。外部機関とのネットワークを構築することができた。スムーズかつ適切に活用していきたい。 ・支援室の運営により、安心安全な学校作りに貢献できた。利用規定について必要な見直しを行っていく。 ・職員研修を2回実施することができた。

分掌	活動目標	評価項目	評価の観点	年間評価（成果と課題）	評価
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の見直し ・次年度科目選択調査の実施と講座数の調整 ・新学習指導要領における学習評価の研究 ・産学官連携のあり方検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校のグランドデザインを踏まえ、生徒および保護者、地域の願いを実現できる教育課程の検討。 ・学科目標、コース目標に沿った教育課程の検討。 ・科目選択ガイダンスの実施、講座数の検討と調整。 ・学習評価の妥当性や信頼性を高める研究。 ・産学官連携の組織体制見直し。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育課程編成・実施方針（CP）に即した教育課程であるか。 ・学科目標、コース目標に沿った教育課程編成となっているか。 ・生徒一人ひとりの進路希望や興味・関心に繋がる科目選択となっているか。 ・生徒、保護者に学習評価の方針が共有できたか。 ・産学官連携がより効果的に機能する体制となったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みらい委員会を中心に職員研修会を通して「ビジネスを探究する学校」としての新しいグランドデザインを作成することができた。このグランドデザインをもとに3年間の教育課程が完成することができた。 ・2年次で3コースに分けて学びを深める。すべてのコースでビジネスを探究するカリキュラムを導入している。 ・授業アンケートのフィードバックを実施し、より分かりやすい授業展開を図っていく。 	B
予算委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な備品の購入 ・適正な需要費の配分 ・施設・設備の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全確保と教育効果 	<ul style="list-style-type: none"> ・購入されたものが、教育上・安全上必要なものであり、有効に活用されたか。 ・各係・委員会等の実情に応じて適正に配分ができたか。 ・施設・設備の有効活用が図られたか。 	各係・教科の要望を配分しながら、均等に予算の配分ができた。	B
学校衛生委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の安全点検を行い、危険を伴う個所の点検を行う。 ・職員の心身の健康を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険個所点検の実施 ・職員の心身の健康管理。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険個所点検を実施できたか。 ・職員の健康管理ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険個所点検を実施した。 ・安全衛生委員会を開催し、人間ドック、職員健康診断、VDT、胃検診等実施した。 	B
運営学校評議員	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育活動や学校運営について、外部の方から幅広く意見を聴き、その支援・協力を得て開かれた特色ある学校づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会の円滑な運営 ・学校運営、教育活動の説明 ・評議員からの意見聴取及び学校関係者評価の実施・集約 	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員会の充実と円滑な運営ができたか。 ・学校教育目標、重点目標達成のための教育実践について理解が得られたか。 ・本会での意見・要望に対して適切な対応がとれたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の評議委員会を開催し、学校運営や教育活動に対して理解し、商業科の特色であるマーケットに来校していただいた。 ・重点目標や各係・委員会での活動党を理解していただいた。 ・アンケートより、より良い学校運営に向けてのコメント等をいただく予定である。 	B
入試委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・選抜業務の円滑な遂行 ・新選抜方法及び内容の決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての選抜業務 	<ul style="list-style-type: none"> ・細部まで滞りなく業務の遂行ができたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・新前期選抜に向けて検討を重ねていく必要がある。 	B
キャリア教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが社会を広く知り、社会とのかかわりの中で自己を確立し、社会で生きる基礎的な力を養う。 ・将来の職業選択へのきっかけをつかむ機会にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験など自己のあり方生き方を考えさせる機会を設定し、自らの将来設計に対する積極的な姿勢を醸成し、社会参画の意識を涵養する。 ・社会人として自立することができる力を育む。 ・実践的な学習や体験を通じ、望ましい勤労観や職業観を持つことができるような指導を心掛け、さらに将来の職業を前向きに考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自己のあり方を考え、社会への関心を持って課題発見や調査・分析することができるような学習の時間を設定しているか。 ・生徒に地域や社会とのつながりを意識させ、毎日の学習が社会で生きることといかに繋がるかを実感させることができているか。 ・さまざまな機会を通して、企業や大学との連携のあり方を研究し、生徒に自らの進路を選択させ長期的な将来設計を行わせる上での最適な素材を提供しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の仕事内容が進路指導係に吸収されたため、進路指導の中で行われた。 ・進路指導の中でのキャリア教育係としては、職場体験事業を進めた。 ・職場体験（ジュニアインターンシップ）に参加希望を出す生徒の減少が目立つ。違った取り組みが必要になるかもしれない。今後の課題である。 	B
小論文指導委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの進路希望を実現する支援の一環として、自己表現の手段としての小論文技術を向上させる。 ・進路決定につながる個に応じた指導を行うため、進路指導係・各学年・各教科と連携し生徒の情報を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作文・小論文指導による自己表現力を育成し、進路希望の実現につなげる。 ・生徒の進路実現に向け、係間・職員間の連携をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの自己表現力を高める文章指導を行えたか。 ・進路指導係・各学年・各教科・図書館と連携し、生徒の多様な進路希望に応える指導ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全員で生徒一人ひとりの小論文指導に当たった。 ・各分掌との連携においては、特に教科との連携において課題を残している。 	B
強歩委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の自然に親しみながら、体力の向上と健全な心身を養うとともに、自己の限界に挑戦する。 ・交通マナーを守り、完走・完歩を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力の向上と健全な心身の育成 ・交通ルール等規範意識の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人が、自己の限界に挑戦しながら、体力向上と心身の育成に取り組むことができたか。 ・交通社会に生活する一員として、交通マナーやルールを遵守することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員、PTAの方々の協力をいただき無事に実施できた。 ・参加生徒は完走を目指してしっかり取り組む姿勢が見られた。 ・交通に関する苦情は無く、交通ルール・マナーは良好だった。 ・PTAからボランティア募集をしたところ多くの方が参加していただけた。 	A
徳商の会 miraい委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標、3つの方針、グランドデザインをベースに新しい学校創設のビジョンを具現化していく。 ・学校再編による新たな学校の在り方や方向性について研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校再編、高校教育改革 ・教育内容や行事等の精選 	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的なビジョンの確立と職員のコンセンサスは得られたか。 ・各部署と連携し学校再編を見据えた協議ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グランドデザイン、スクールミッションの策定を行い、目指す学校像について協議を行うことができた。 ・学校再編を見据えた新しい学びの具体的内容について、各部署、生徒と連携して検討を進めていく。 	A
3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが希望する進路を実現できるよう指導・支援する。 ・基本的な生活習慣の確立と良識ある社会人として力を備えて卒業できるように指導・支援する。 ・学校の特徴を理解し、それを活かしながら力(学力・資格取得等)をつけるように指導・支援する。 ・精神的な自立を目指し、適切な人間関係が築けるように指導・支援する。 ・行事や生徒会活動を通して活動的なクラス・学年集団作りをする。 ・狭い社会集団(学校のグループ、クラス、学年)だけでなく、地域・社会への関心を持てるように指導・支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが各自の進路実現にむけて計画を立て、進路目標に向けて自主的に取り組むことができる。 ・資格試験や模擬試験など、さらには様々な学校行事への積極的な参加ができる。 ・クラス、学年、クラブ、委員会などの活動の中でさまざまな人と関わり、コミュニケーションをとりながら行動する。 ・個々の人間関係から、地域の課題、人権などの社会の課題にまで関心が持てるようになる。 ・3年生(最上級生)であることを自覚し、さまざまな活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な資料・機会を準備し、進路実現に向けて意欲を引き出し、進路希望を実現することができたか。 ・生徒理解、生徒への指導・支援、働きかけが適切にできたか。 ・生徒の意識を高められたか。 ・さまざまな場面で適切な指導ができたか。 ・生徒の微妙な変化に気がつき、対応できたか。 ・適切な働きかけ、機会の提供ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会を中心に、各クラスや個々の生徒についての情報を共有することで、該当生徒への対応を適切に行えるよう心がけた。 ・三者懇談や個別面談を通じて、進路に関する情報共有や意識づけを大切に行い、具体的な進路実現に繋げることができた。 ・種商祭では担当の先生方のご指導のもと、リーダーシップを発揮することができた。また、徳商マーケットは、課題研究に組み込んで継続的に取り組みを行い準備を進めることができた。また、3年生たちは後輩たちをよくサポートし、盛り上げていた。 ・クラスマッチや合唱コンクールなどクラスや学年の団結を強め、最高学年としての自覚を持ち、学校全体を盛り上げることができた。 	B
2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における基本的な生活習慣を身につけ、落ち着いた生活基盤の上に授業に向かう姿勢を身につける。 ・将来を見据えた進路実現をめざして、適切な進路指導を行う。 ・2年生としての立場を理解し、生徒会、徳商マーケット、修学旅行など学校行事へ積極的に参加できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の様子、諸行事に対する姿勢や行動。 ・日常の授業へ向かう姿勢。 ・提出物の状況。 ・将来の仕事、就職、進学を意識した基礎学力の向上と資格取得。 ・適切な目標設定と適切な3年次の科目選択。 ・クラス、学年、クラブ、委員会などの活動の中で様々な人と関わり、コミュニケーションをとりながら行動する。 ・徳商祭や徳商マーケット、修学旅行に積極的に参加し行事を成功させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解、生徒への指導、働きかけが適切にできたか、生徒の意識を高められたか。 ・適切な資料、機会を準備し、働きかけができたか。 ・コースごとの目標に沿って、生徒の目標に合わせた学習指導ができたか。 ・さまざまな場面で適切な指導ができたか。 ・生徒の微妙な変化に気がつき、対応できたか。 ・適切な働きかけ、機会の提供ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面談や保護者懇談を通して生徒の状況を把握し、学年団で情報を共有しながら落ち着いた学校生活が送られるよう支援してきた。 ・コース別の授業が始まり、進路実現に向けて個々の能力・適性に合わせて指導してきた。意欲的に学習し能力を伸ばす生徒がいる一方で、学習意欲が持てない生徒への指導が課題である。 ・生徒会活動、修学旅行を通して学年全体で協力をしようとする態勢ができるよう働きかけをしてきた。3年次に向けて、更に意識を高めさせたい。 	B
1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・徳高商業高校生としての基本的な生活習慣・学習習慣を身につけるとともに、学習面において主体的・対話的に探究する姿勢を身に付ける。 ・生徒が希望する進路実現をめざして、計画的な進路指導を行う。自己を理解し、自分の将来の目標に向かって努力できるようにする。 ・生徒が安心かつ安全に学校生活を送り、適切な人間関係が構築できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校則や時間、提出期限等を守る意識の育成。 ・他者の話を傾聴する態度の育成。 ・授業や資格取得に対する主体的な取り組みの促進。 ・今年度より導入した「ビジネス探究プログラム」によりビジネスを主体的に探究する姿勢の育成。 ・自己を理解し、進路を意識した科目選択や資格取得への主体的な取り組み。 ・情報収集・進路ガイダンス等への目的意識を持った積極的参加。 ・学級、学年、部活動、委員会などさまざまな活動に対し、他者と協働しながら意欲的・積極的な参加する。 ・情報モラルの向上。 ・自発的な健康管理や衛生観念の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に生徒やクラスの状況を把握して、SHRや面談などを通して、適切な指導を行うことができたか。保護者との連携はできたか。 ・朝学習を計画的に実施できたか。 ・商業科と連携して、ビジネス探究プログラムや検定取得に取り組ませることができたか。 ・進路学習やキャリア学習の機会や資料を準備し、計画的に働きかけができたか。 ・キャリアパスポートを用いて定期的に学校生活を振り返り、自己理解、進路への意識を高めることができたか。 ・生徒の状況を把握するための有効な個人面談が実施できたか。また、把握した状況に対して適切な対応ができたか。 ・スマートフォンやタブレットの利用における指導は適切であったか。 ・健康や衛生に関する意識を向上できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校として設定された面談週間だけでなくとどまらず、心配な生徒に随時面談を行い、必要に応じて保護者・生徒支援など各署と連携して対応することができた。 ・今年度より学習アプリを導入し、タブレット端末を利用してしっかりと取り組めた。 ・ビジネス探究プログラムでは普通科職員もTTで担当し、複数の目で評価ができるなど効果的だった。また、検定に向けた特別補習も実施して資格取得の一助となった。 ・事前学習などから意識を高めさせ、計画通り実施できた。次年度に向けて更なる働きかけを様々な場面で行いたい。 ・計画通り実施し、面談・三者懇談の場面に有効活用したことで、進路意識を高めることができた。 ・学年室やその他の教室も借りながら有効な面談が実施できた。情報の種類により、関係各所と連携し、情報共有と問題解決に取り組むことができた。 ・入学時学年集会等で適切な利用について学習を徹底し、HRや授業等でも十分な学習と指導ができたので今後も継続したい。 ・換気等職員が率先して実施し、その意義について理合を深めさせる ・基礎知識の定着を重点に様々な作品に触れることができた。授業内容や方法、評価については生徒の様子を見ながら更に研究したい。 ・教科書の学習内容から、グループ活動、発表につなげて主体的な学びを促すことができた。授業形態なども更に工夫し、息学傾向にある生徒に対しても十分な対応を心がけたい。 ・新聞、雑誌なども活用して社会にも目を向けさせ、身近な問題として捉えさせることができた。修学旅行など、各行事の事前学習の一環として多様な文章を読み、自らの文章で表現する時間を積極的に設けた。 	B
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの文章に触れることにより、人間や社会に対しての関心を深める。 ・進路実現やこれからの実社会の生活において、的確かつ効果的な表現能力を身につける。 ・希望する進路実現ができるよう学力を伸ばし、表現能力（書く・話す）を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解 ・関心・意欲・態度 ・表現・思考・判断 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容・方法についての研究が充分図られたか。 ・生徒の実態に即し主体的・対話的な授業展開ができたか。 ・現代社会に即した学びを深めることができる授業内容だったか。 		B
地歴公民科	<ul style="list-style-type: none"> ・主権者として必要とされる社会認識や自己決定する力を育てる。 ・授業を工夫し、生徒自身が考え、発信できる力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に関する関心・意欲 ・知識・理解 ・言語活動、資料活用能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な出来事に興味関心を持たせ、自分の考えをまとめ表現する力を養えたか。 ・生徒の実態に即した授業内容を精選し、知識理解を深めさせることができたか。 ・講義、対話、グループ演習、討論などの授業方法を工夫し、生徒の能動的な活動を支援できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目において時事問題をタイムリーに扱い、興味関心を持たせることができたが、思考・判断・表現をさらに磨いていきたい。 ・扱う単元を精選し、どの生徒でも難しい仕組みなどを理解できるようにユニバーサルな授業を展開できた。 ・講義一辺倒にならず、対話的で深い学びになるように生徒と一緒に考える支援ができた。 	B
数学科	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人生を送るために必要な教養を身につける。 ・論理的な思考や創造力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲・態度 ・数学的な見方や考え方 ・表現、処理 ・知識、理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲・態度が身に付いたか。 ・数学的な見方や考え方ができるようになったか。 ・表現、処理ができるようになったか。 ・知識、理解が深まったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の様子を確認しつつ、疑問点等に対応できるよう心掛けた。しかしながら新しい内容の理解に苦しむ生徒も見られたが、演習の時間を多く設けることで定着することが出来た。 ・計画していたシラバスに沿うよう授業を進行することはできた。ただし、中学までの内容の補充、高校の基礎の内容に対する個人差を見ながら授業の進行を工夫する必要がある。 ・身の回りに関連する事象や数式の生まれた歴史、他教科に使われている例を示しながら、数学的な見方や考え方ができるよう授業に努めた。 ・見やすく要点がわかる板書と、書き留めるための時間配分を心がけた。 ・基礎の知識習得を目指し、定期テスト・補習・課題で確認した。だが、補習と課題提出の完了には時間を要した。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・人間と自然との関わりについての認識を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識及び技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然科学分野の知識・理解が身についているかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートより、授業内容を理解できた生徒が多かった。定期考査の平均点はおおそ想定範囲内ないしは想定より高めであったが、単元によっては知識の定着が難しかった。生徒が苦手とする単元に興味・関心を持つような授業を工夫したい。 	

分掌	活動目標	評価項目	評価の観点	年間評価（成果と課題）	評価
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験・議論を通して、自然科学に対する総合的な見方・考え方を養う。 自然の事物・現象に関する関心・理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考力・判断力・表現力 主体的に学習に取り組む態度 	<ul style="list-style-type: none"> 科学的な物の見方・考え方をすることができるかどうか。 自分の意見の表現・多様な意見の処理ができるかどうか。 自然科学への関心・意欲・態度はどうであるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 科学と人間生活では実験やレポート課題により、化学基礎・生物基礎・生物では授業での発問や問題集の演習などにより、科学的な物の見方・考え方はある程度身についた。自分の考えをまとめ、表現する機会を増やすことで、科学的なものの見方や考え方を伸ばす指導を工夫したい。 授業アンケートより、授業内容に興味を持って臨んだ生徒が多かった。最新の身近な事象を授業内容に関連付けながら、生徒がより興味・関心を持って取り組めるような授業実践を工夫したい。 	B
保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上とスポーツを通して人間性・社会性を高める。 心身の調和のとれた発育・発達を目指し、心と体を一体としてとらえた学習指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に学習に取り組む態度 思考・判断・表現 知識および運動の技能 	<ul style="list-style-type: none"> 出席率 運動量 準備、片づけへの関わり 上達への工夫がなされているか。 技能上達への過程を意識した活動ができているか。 お互いのアドバイスを積極的に行う又は求めることができているか。 種目に適した、基本的な技能を身に着けようとしているか。 ルールを守り、公正な態度でゲームに取り組むことができたか。 運動の必要性・健康の大切さを理解できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育に関して好き嫌いはあるものの準備、片付け等を協力して行うことによりその種目に関心を持ち、積極的に授業に参加することができた。 一部の生徒に体操着を忘れたり、ピアス、爪等安全への配慮に欠けることがあった。来年度への課題としたい。 ルールを守ることがけがや故障の防止になることが理解できた。 技能の上達という面では運動欲求が強い生徒が減ってきている。できる生徒とそうでない生徒の格差が大きく、特に集団スポーツの展開が課題である。 講座の編成（2クラス同時）ができ、男子生徒にとってはゲーム形式の授業で十分な効果が得られた。 必要性は理解しているが自分のものとして実践までは至っていない。 生涯体育への意識づけが課題。 ルールの理解、公正な態度によるゲームへの取り組みはおおむね達 保健体育の授業を通じて、運動の必要性・健康の大切さは理解できていると思う。科としてはさらに支援の方法を検討していく。 	B
芸術科	<ul style="list-style-type: none"> 美に対する感性を高め、美しさや良さを感じ取る力や、表現する力をつけ、創造する喜びを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味、関心を引き出す題材と導入 造形、道具、画材の基本的な学習 作品の理解を深める鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味、関心を引く題材設定と導入ができたか。 道具や画材の基本的な使い方をおさえることができたか。 作品の理解を深める制作や鑑賞に導けたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は安曇野市と連携した授業を計5件5部署からの依頼に協力することができた。また選択美術では計6名の外部講師を招聘した授業も展開することができ非常に充実していた。 しかし一方で欠席日数の増加や、理解度の低下、手の遅さ・不器用さなど生徒に起因する課題が多くあり、進度面で苦労した。コロナ禍の影響や経験不足などが原因であると考え、今後の課題である。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 音楽活動を通して、生徒の音楽を愛好する精神を築き情緒を育成する。 パート練習やグループ練習を通して生徒自ら主体的に取り組む力を育成する。 音楽理論・西洋音楽史を通して音楽を知る喜びを育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識及び技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学習に取り組む態度 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲、関心をもって取り組むことができたか。 生徒の意欲や主体的な活動につながる教材や助言を与えることができたか。 音楽の構造や理論を理解できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽学習専門のプラットフォームや継続的なトレーニングを用いることによって、読譜力の向上に努めることができた。 オンラインツールの利用や個々の実状をふまえた声かけを通して、理解力、表現力の向上に努めた。 実技、座学、講義、発表等、様々な学習形態を取り入れながら、学習内容の理解を促した。 	B
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> 英語を理解し、英語で表現する能力を養い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文法および語彙力をはじめとする基礎基本の定着を図りながら、表現力を養成するための指導方法の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的なシラバスを研究し、作成することができたか。 基礎基本を定着させ、個々の表現力を高める指導ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」活動をバランスよく取り入れるよう努め、生徒の状況に応じて授業形態を工夫することができた。 ALTとのTTを通して、生徒が能動的に英語でコミュニケーションを取ろうとする意欲を高めることができた。 定期考査に加えてパフォーマンステストを実施することや、スピーチコンテストの指導をする中で、個々の表現力を高め、発展的な学習への意欲を引き出すことができた。 中学での既習事項が定着していない生徒も見られるため、引き続き、基本事項の復習を取り入れながら丁寧に指導することを大切にしたい。 	A
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自らが生活課題の解決に主体的に取り組めるよう、基礎的・基本的な知識・技術を定着させるための指導の充実をはかる 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが問題意識を持って取り組める学習内容、教材等の研究 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な学習活動を支援できたか。 学習教材・実習の内容や教材は有効であったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実情に合わせながら、できる範囲で声掛けを行った。 とくに調理実習や被服製作などは、細かい質問に答えながら、一人一人が理解しやすいよう努めた。 実習や製作の内容は、限られた時間内で終わらせるために自宅等への持ち帰りを許可した。簡単な作業ではあるが時間がかかるため、本校の生徒が自分のすべきことに向き合い、良い教材だったと感じている。来年度に向けて検討したい。 	B
商業科	<ul style="list-style-type: none"> これからのビジネスに必要な資質・能力を育成する。 ビジネスを探究する学びを実現する。 産学官連携学習の充実を図り、探究する学びを実現する。 コースごとの学習内容の検討及び決定 	<ul style="list-style-type: none"> 目標達成のための授業展開及びその改善がなされているか 外部機関との連携が図れているか C Pに見合う学習内容が設定・提供できているか 	<ul style="list-style-type: none"> 教員が探究できていたか 探究する学びを提供できていたか 授業改善ができたか C Pを意識した授業展開ができていたか 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に身に付けてほしいことや伸ばしたい力等を明確に意識し、授業改善をすることができた。次年度以降も引き続き努めたい。 CPの「ビジネス」を強く意識した授業展開が構築されつつある。引き続きより良い授業となるよう努めていく。 	B